

2024年（令和6年）3月22日付け 徳島新聞 掲載記事からの引用



ホンダCB400F、CBX400FやカワサキZ400FXなど、1970～80年代に販売された国産オートバイは、現在もなお人気が高い。それらの復刻部品を手掛けるBRC（徳島市）の渡辺美視社長（66）は「ヨンフォア（CB400F）の部品に関しては、全国的にうちが一番充実していると思う」と胸を張る。

## 旧車オートバイ用復刻部品

### BRC（徳島市）

同社が復刻するのは、走る、止まるといった乗り物の基本的な動きに必要な主要部品から、電気関係の配線類、車名や注意書きのステッカーに至るまで千点以上に上る。

自らも10台以上の旧車を所有する渡辺社長。「オーナーの人として、こんな部品があればいいのに、この部品はこうなっている」と、こだわって開発している」と、オリジナルを上回る性能を追求している。

金属のつなぎ目を密閉する樹脂部品「ガスケット」は、厚みを増した新商品を開発し、長年の使用で起こるエンジンのオイル漏れを防げるようにした。アクセルやクラッチのワイヤーは、摩擦抵抗を減らして軽い力



復刻したCB400F用のマフラーを手にする渡辺社長＝徳島市住吉5

当初は旧車専門店として車体そのものを販売していた。2000年ごろからインターネットによる業者向けオークションが普及し、専門店でなくとも旧車を扱う店が増えて競争が激しくなり、部品の販売、復刻に軸足を移した。

旧車愛好家の裾野を広げるため、14年からは毎年、同じ趣味を持つ人が集まるイベント「徳島絶版バイクミーティング」を主催。ただ新型コロナウイルス禍の影響で、19年の第6回を最後に終了した。

で操作できる品を発売した。渡辺社長がオートバイ業界に飛び込んだのは79年、22歳のとき。都内のショップでノウハウを学び、91年に独立して地元徳島に店を開いた。

# 純正品上回る性能追求

その後の半導体不足に伴う新車生産のストップで、旧車を楽しむ人が増えたと言う渡辺社長。「若いころ憧れたオートバイを、50代、60代になって手に入れて大事にしている人は多い。そんな人たちが安心して乗り続けられるよう、これからも部品の供給に力を入れたい」と語った。

（青木忍）